

第2章

松戸市の こどもをめぐる状況



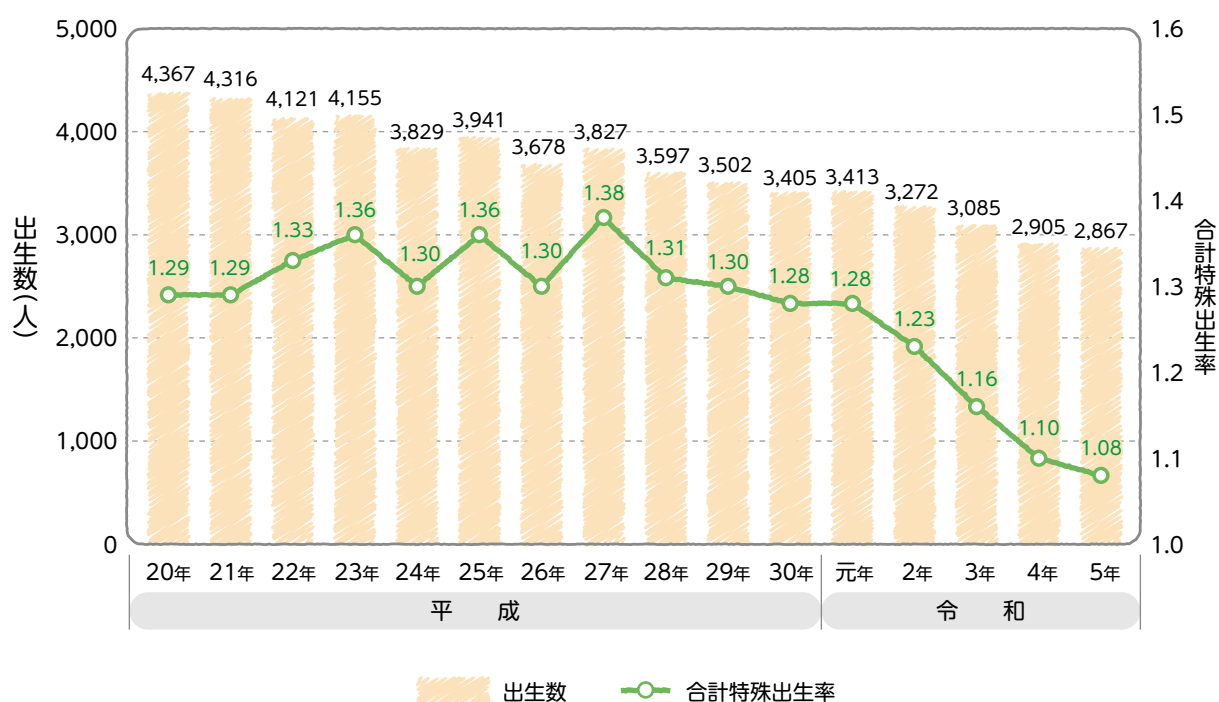
第1節

少子化の状況

(1) 出生数及び合計特殊出生率

本市の出生数及び合計特殊出生率は、平成27年以降、減少が続いており、令和5年の出生数は2,867人、合計特殊出生率は1.08となっています(図表2-1)。

図表 2-1 出生数及び合計特殊出生率の推移



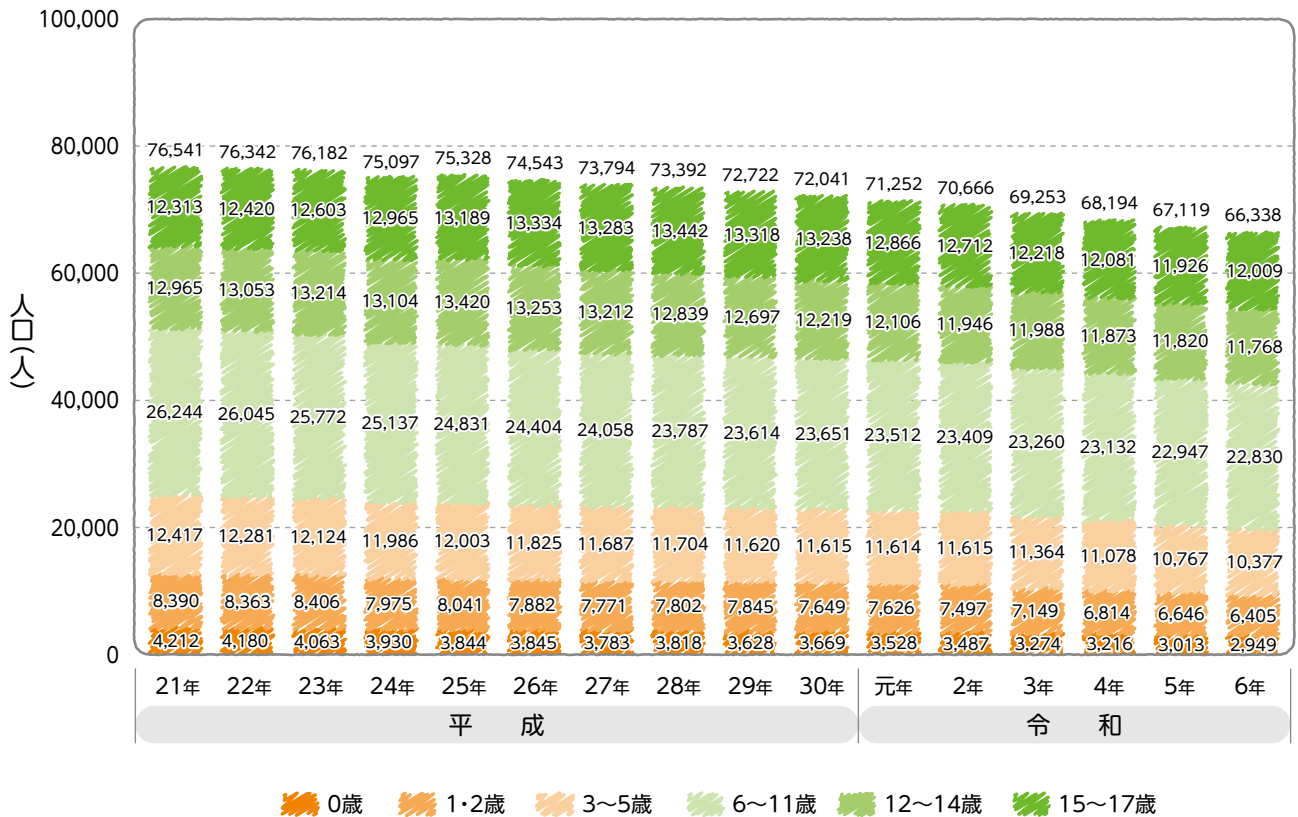
出典：千葉県衛生統計年報「人口動態統計の概況(確定数)」



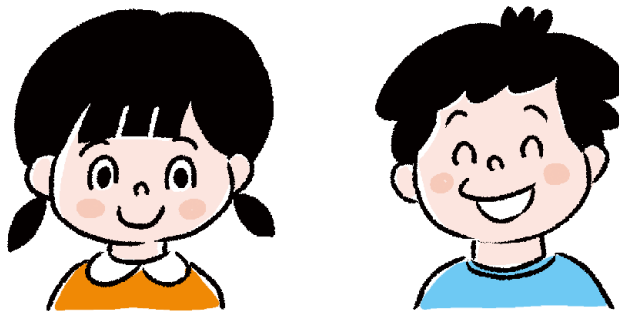
(2) 18歳未満人口

本市の18歳未満人口は減少が続いており、令和6年は66,338人となっています(図表2-2)。

図表 2-2 18歳未満人口の推移



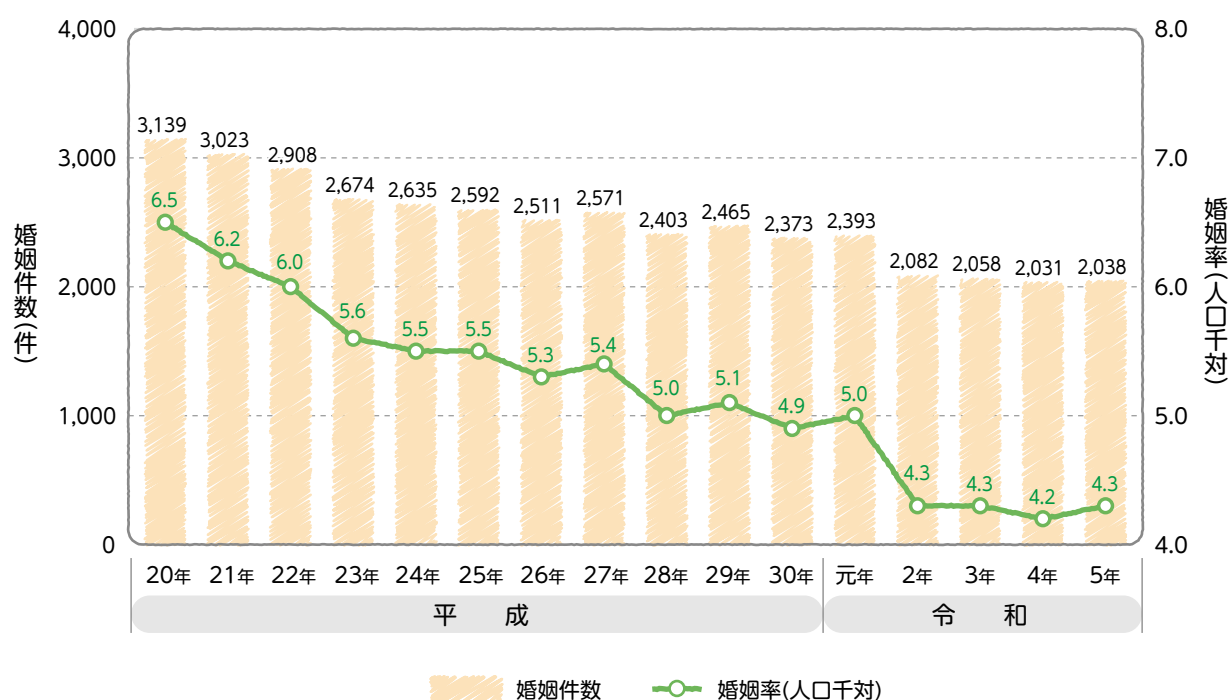
出典：松戸市住民基本台帳（各年3月末現在）



(3) 婚姻件数及び婚姻率

本市の婚姻件数及び婚姻率(人口1,000人当たりの婚姻件数)は減少傾向にあり、令和5年の婚姻件数は2,038件、婚姻率は4.3となっています(図表2-3)。

図表 2-3 婚姻件数及び婚姻率の推移



出典：千葉県衛生統計年報「人口動態統計の概況(確定数)」

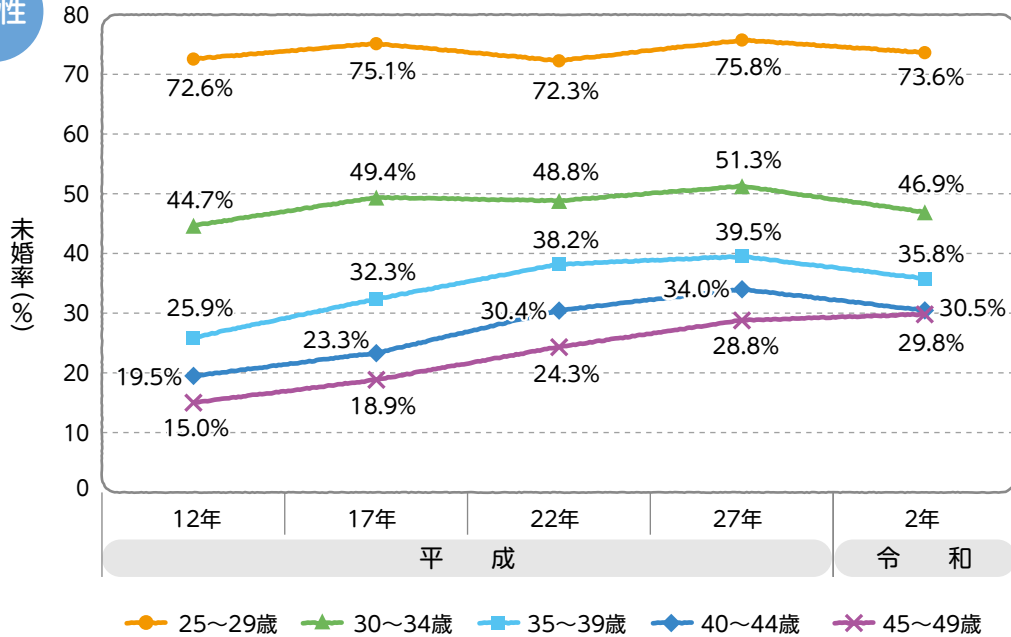


(4) 未婚率

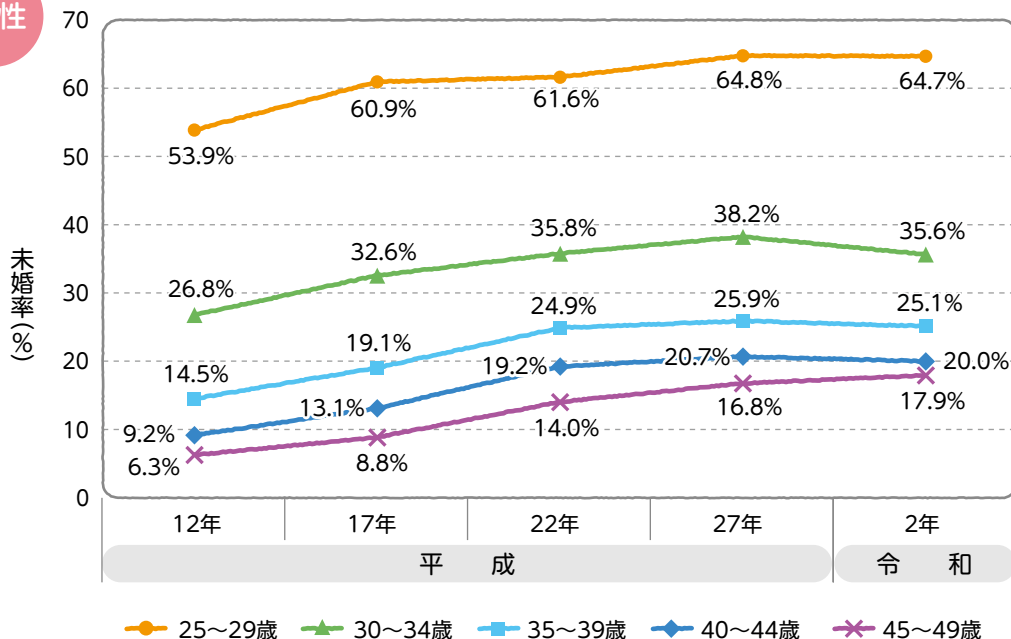
本市の未婚率は男女ともに上昇傾向にあり、令和2年の男性は30～34歳では約2人に1人(46.9%)、35～39歳では約3人に1人(35.8%)、女性は30～34歳では約3人に1人(35.6%)、35～39歳では約4人に1人(25.1%)が未婚となっています(図表2-4)。

図表 2-4 未婚率の推移(男女・年齢別)

男性



女性

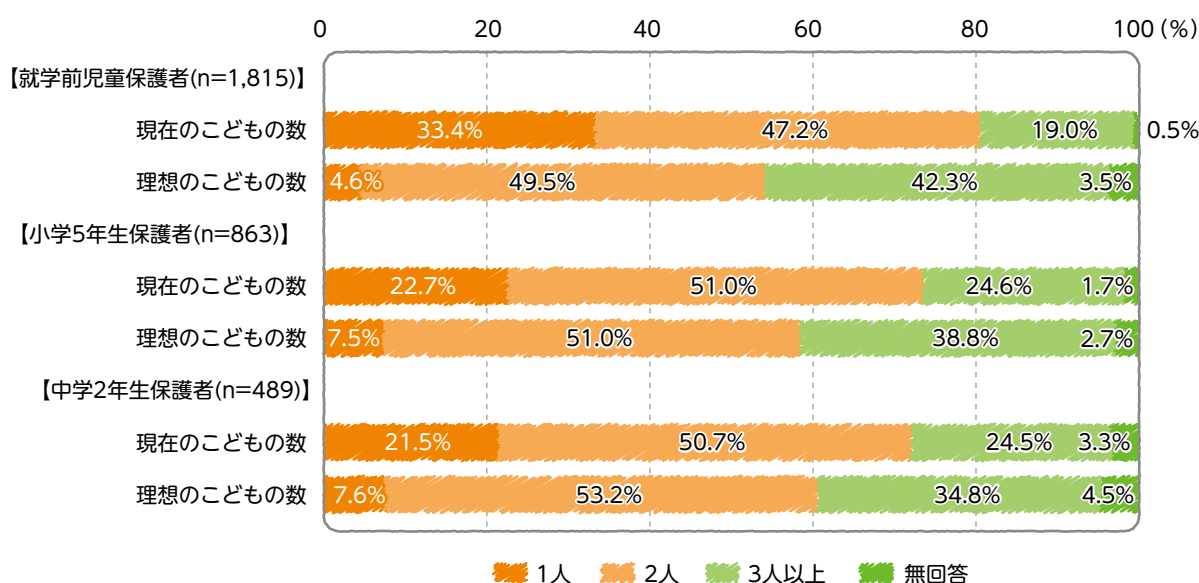


出典：総務省「国勢調査」

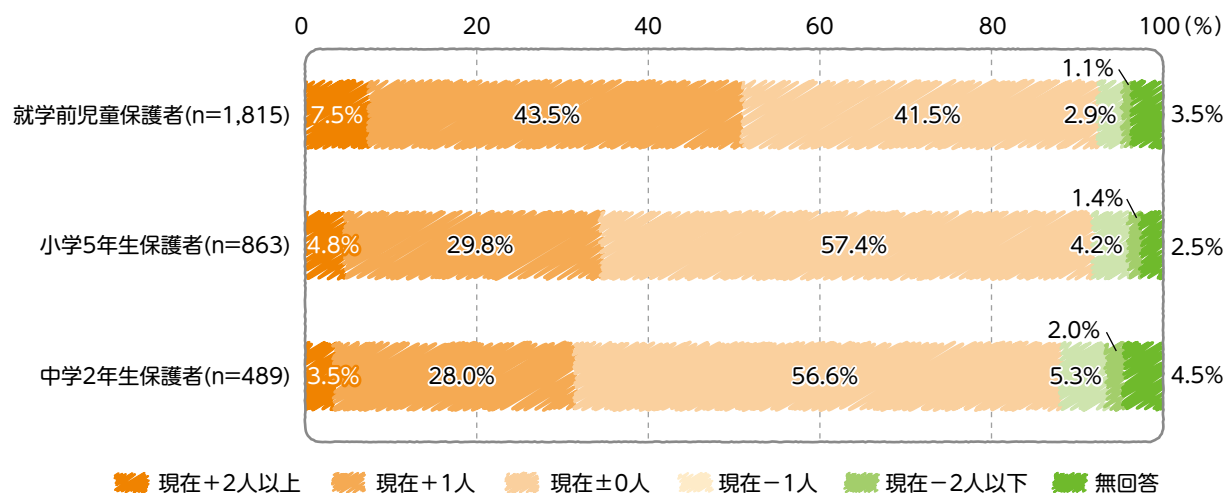
(5) 理想とするこどもの数

本市における就学前児童保護者、小学5年生保護者、中学2年生保護者が理想としているこどもの数は、いずれも現在のこどもの数と比較して多くなっています(図表2-5)。就学前児童保護者では約2人に1人(51.0%)、小学5年生保護者では約3人に1人(34.6%)、中学2年生保護者では約3人に1人(31.5%)が、現在よりも多くのこどもの数を理想としています(図表2-6)、その実現見込みについては、就学前児童保護者では約7割、小学5年生保護者及び中学2年生保護者の約8割は、「実現できないと思う」となっています(図表2-7) (「実現できないと思う」理由については、p.101の図表5-13参照)。

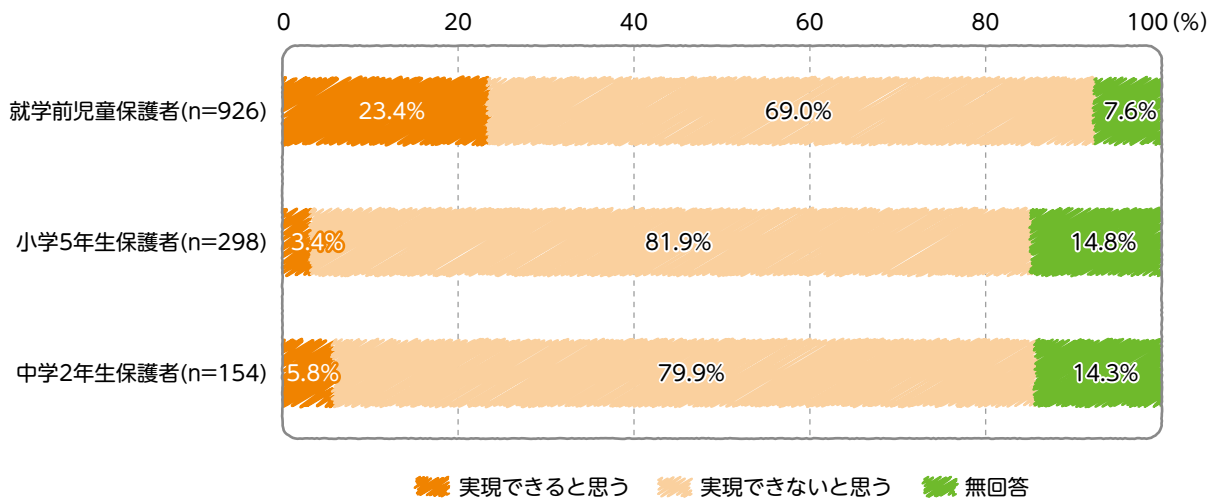
図表 2-5 現在のこどもの数と理想のこどもの数



図表 2-6 現在のこどもの数と比較した理想のこどもの数



図表 2-7 理想のこどもの数の実現見込み



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（令和5年度）」

注：「理想のこどもの数>現在のこどもの数」である保護者が対象



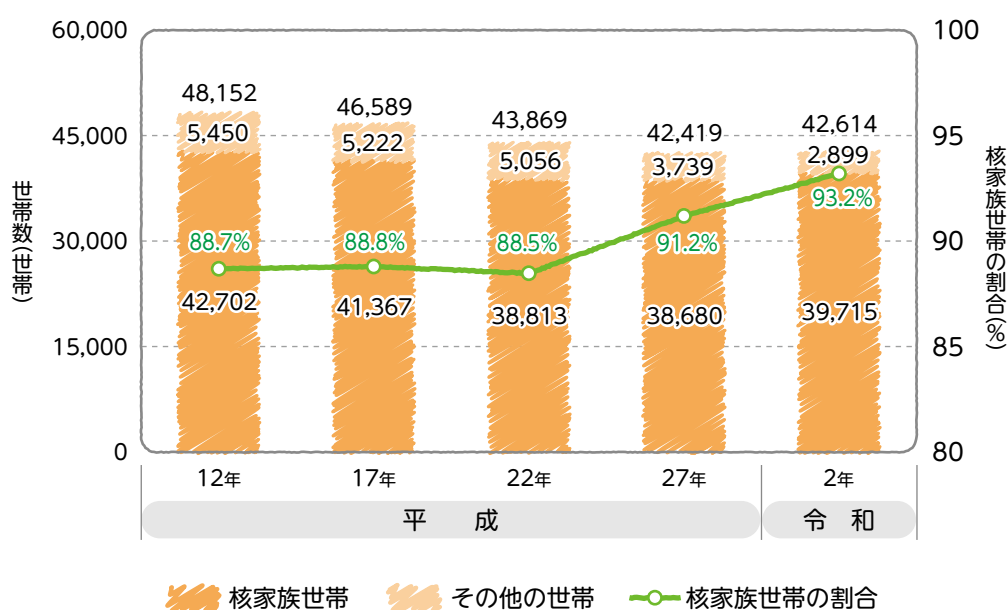
第2節

子育て世帯の構成及び就労状況

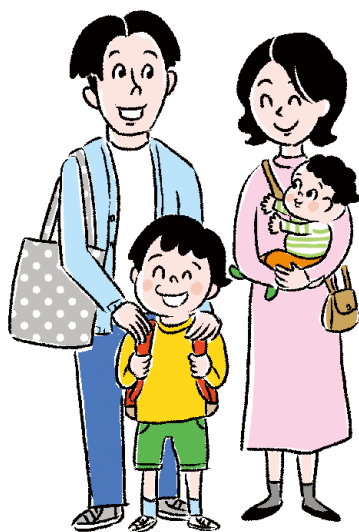
(1) 世帯の構成

本市の18歳未満世帯員のいる世帯の数は、令和2年は微増したものの減少傾向で、そのうち核家族世帯が占める割合は上昇しており、令和2年では93.2%となっています(図表2-8)。

図表 2-8 18歳未満世帯員のいる世帯数の推移



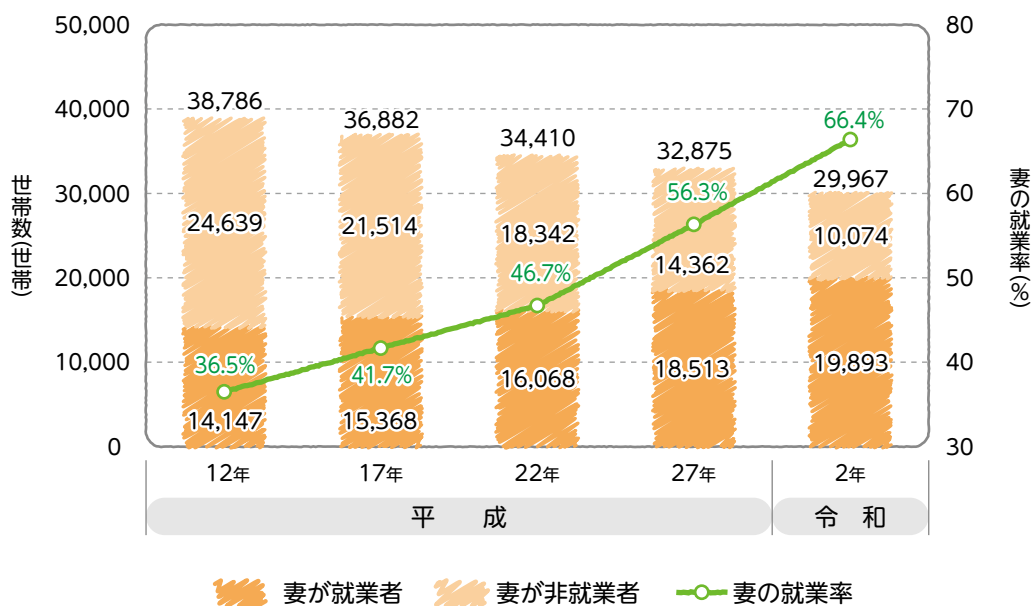
出典：総務省「国勢調査」



(2) 母親の就労状況

本市の夫婦のいる核家族世帯で最年少のこどもが18歳未満の世帯において、妻が就業している世帯及びその割合は増加が続いており、令和2年は19,893世帯で66.4%を占めています(図表2-9)。

図表 2-9 妻の就業状況の推移
(夫婦のいる核家族世帯で最年少のこどもが18歳未満の世帯)



出典：総務省「国勢調査」

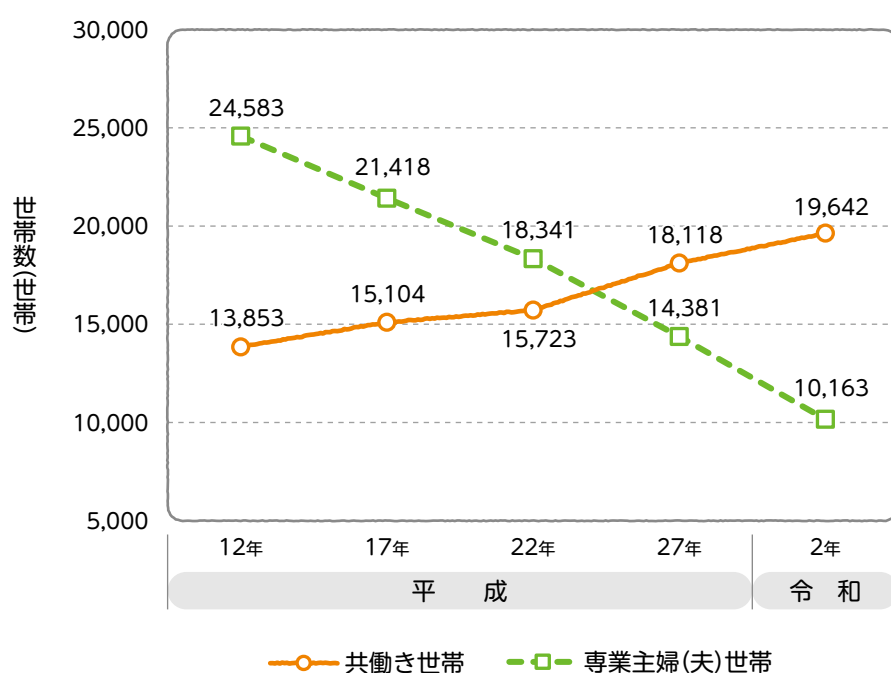
注：夫の労働力状態が「不詳」の世帯は除く



(3) 世帯の就労状況

本市の夫婦のいる核家族世帯で最年少のこどもが18歳未満の世帯では、専業主婦(夫)世帯の数は減少が続いており、令和2年は10,163世帯となっています。一方で、共働き世帯の数は増加が続いており、平成27年以降は、専業主婦(夫)世帯の数を上回り、令和2年は19,642世帯となっています(図表2-10)。

図表 2-10 共働き世帯数及び専業主婦(夫)世帯数の推移
(夫婦のいる核家族世帯で最年少のこどもが18歳未満の世帯)



出典：総務省「国勢調査」

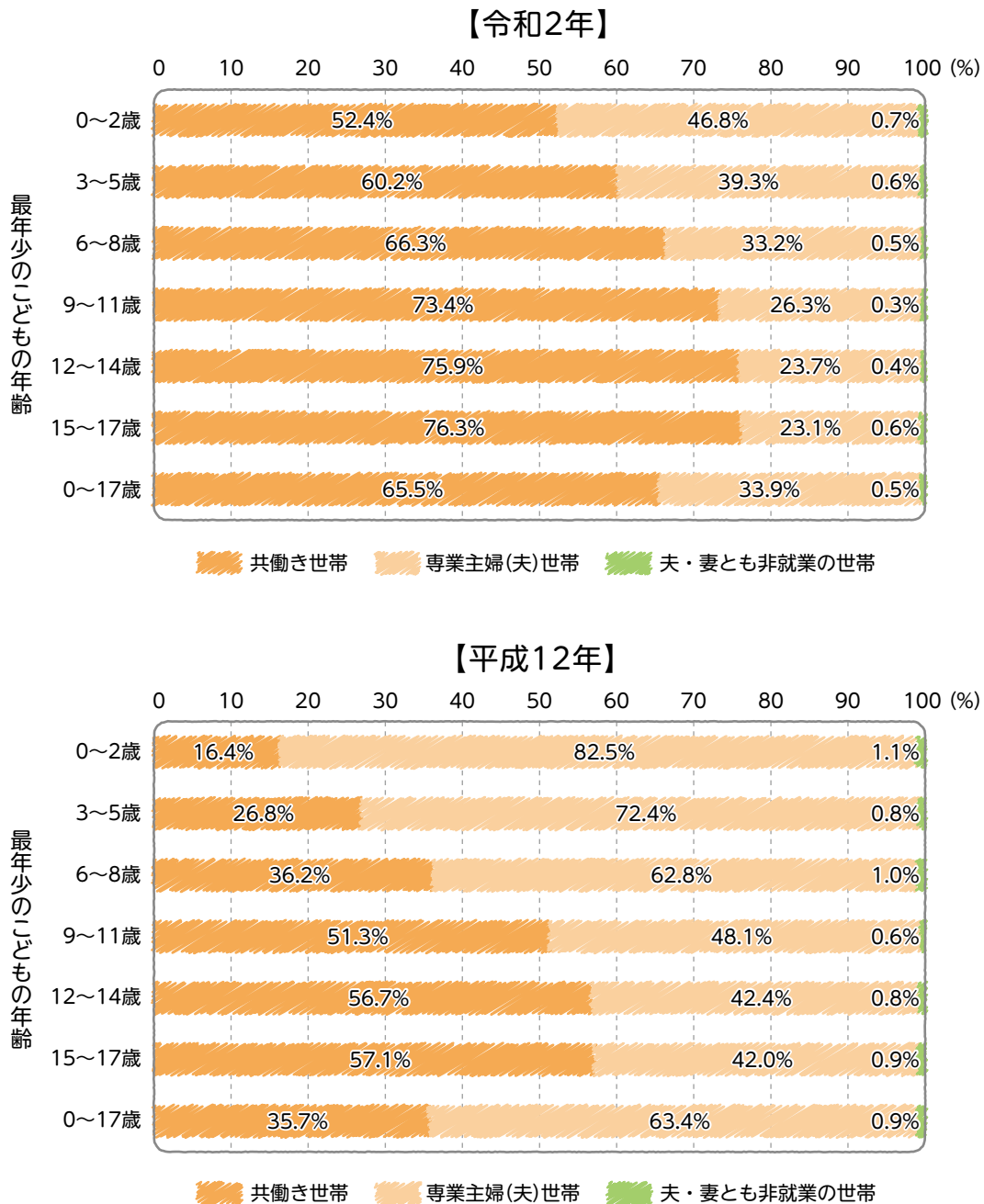
注：共働き世帯は、夫・妻とも就業者の世帯

専業主婦(夫)世帯は、夫が就業者・妻が非就業者または夫が非就業者・妻が就業者の世帯



また、令和2年における夫婦のいる核家族世帯の就労状況を、最年少のこどもの年齢別でみると、こどもの年齢が低いほど共働き世帯の割合は低くなっており、15～17歳では76.3%、0～2歳では52.4%となっていますが、0～2歳の共働き世帯の割合は、平成12年の16.4%と比較すると、約3倍に増加しています(図表2-11)。

図表 2-11 夫婦のいる核家族世帯の就労状況
(最年少のこどもの年齢別)



出典：総務省「国勢調査」

注：共働き世帯は、夫・妻とも就業者の世帯

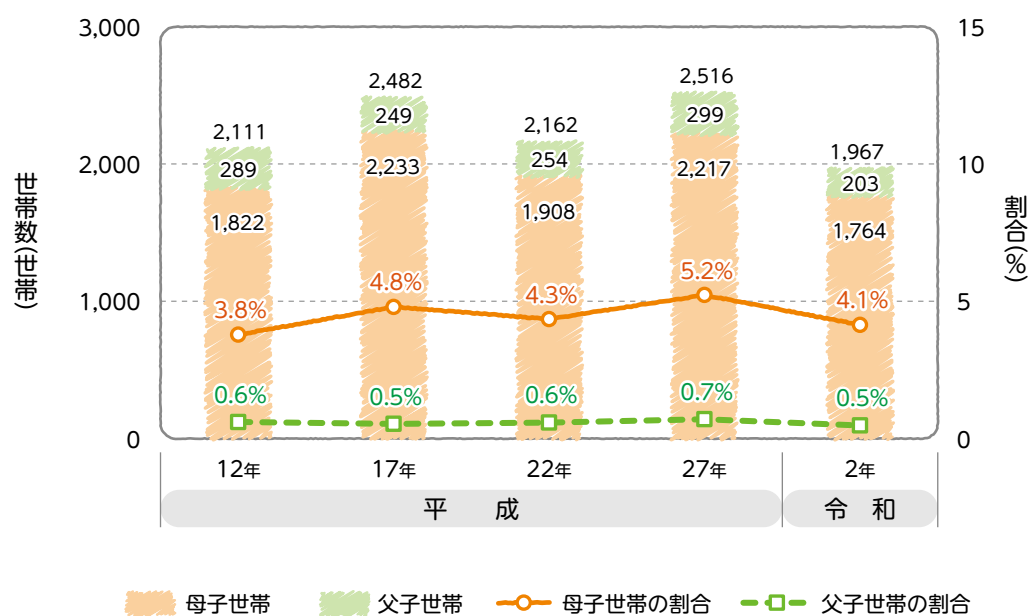
専業主婦（夫）世帯は、夫が就業者・妻が非就業者または夫が非就業者・妻が就業者の世帯

夫または妻の労働力状態が「不詳」の世帯は除いて集計

(4) ひとり親世帯

本市の令和2年における18歳未満世帯員のいるひとり親世帯の数は、母子世帯が1,764世帯、父子世帯が203世帯となっており、どちらも平成12年以降では最も低くなっています(図表2-12)。

図表 2-12 母子・父子世帯数の推移



出典：総務省「国勢調査」

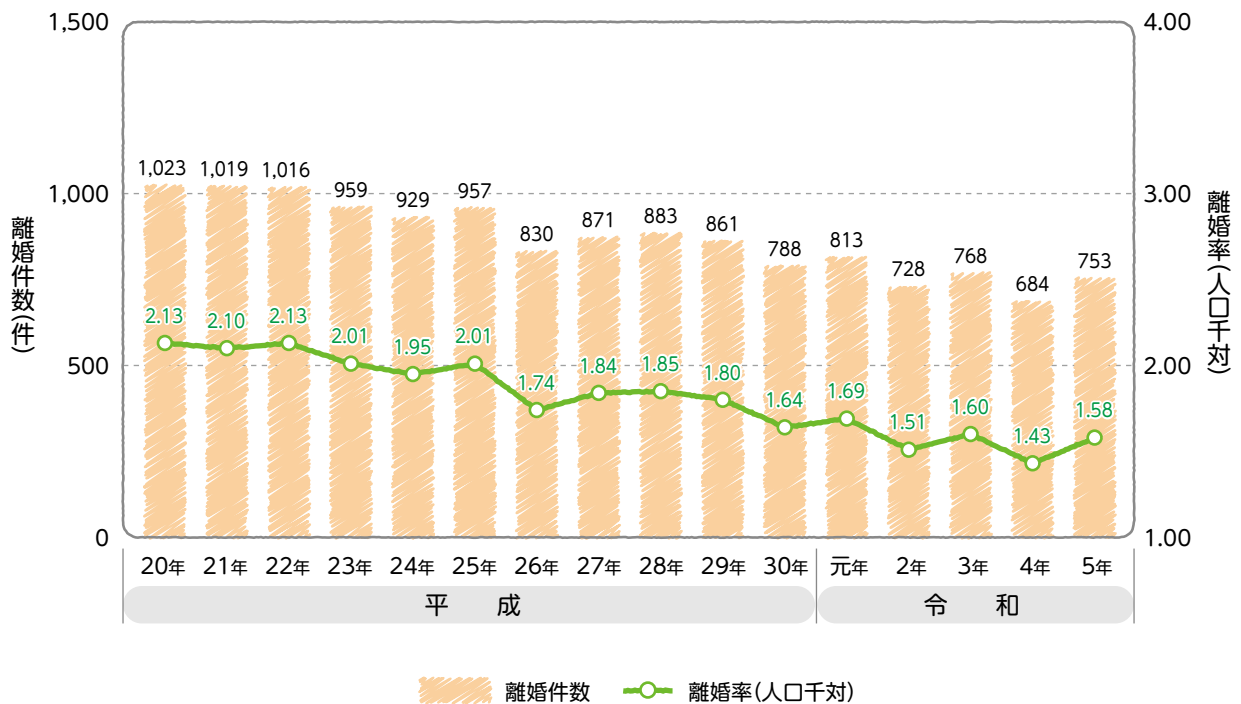
注：母子世帯・父子世帯は18歳未満世帯員のいる世帯に限定、割合は18歳未満世帯員のいる世帯に占めるもの



(5) 離婚件数及び離婚率

本市の離婚件数及び離婚率(人口1,000人当たりの離婚件数)は減少傾向にあり、令和5年の離婚件数は753件、離婚率は1.58となっています(図表2-13)。

図表 2-13 離婚件数及び離婚率の推移



出典：千葉県衛生統計年報「人口動態統計の概況(確定数)」



第3節

こども・子育て世帯の生活に対する認識

(1) 暮らしの状況についての認識

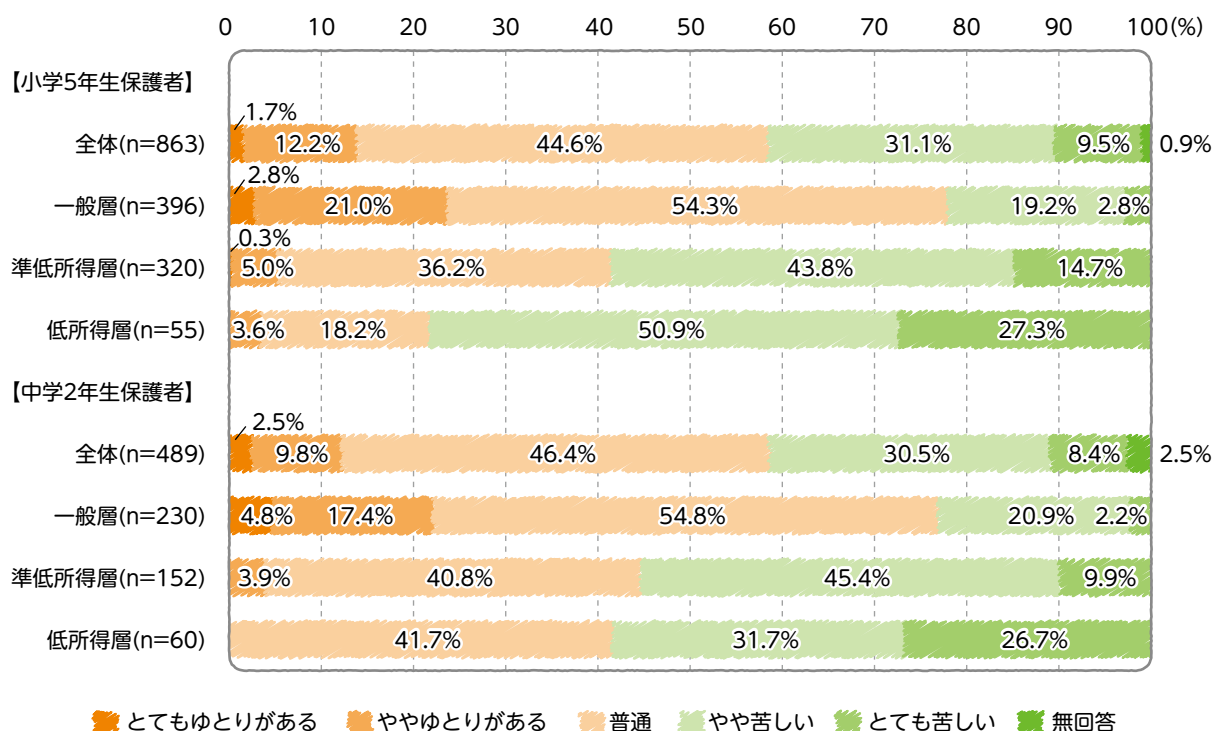
現在の暮らしの状況をどのように感じているかについては、小学5年生保護者では、「とてもゆとりがある」が1.7%、「ややゆとりがある」が12.2%、「ふつう」が44.6%となっており、合わせて58.5%となっています。他方で、「やや苦しい」は31.1%、「とても苦しい」は9.5%となっており、合わせた割合は40.6%となっています。

また、中学2年生保護者では、「とてもゆとりがある」が2.5%、「ややゆとりがある」が9.8%、「ふつう」が46.4%となっており、合わせて58.7%となっています。他方で、「やや苦しい」は30.5%、「とても苦しい」は8.4%となっており、合わせた割合は38.9%となっています。

なお、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた割合について、等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生保護者では、「一般層」の世帯で22.0%、「準低所得層」の世帯で58.5%、「低所得層」の世帯で78.2%となっています。

また、中学2年生保護者では、「一般層」の世帯で23.1%、「準低所得層」の世帯で55.3%、「低所得層」の世帯で58.4%となっており、等価世帯収入の水準が低いほど、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた割合は高くなっています(図表2-14)。

図表 2-14 保護者の暮らしの状況についての認識(等価世帯収入の水準別)



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（令和5年度）」

注：等価世帯収入（世帯年収を世帯人数の平方根で除した値）の水準は以下のとおり分類

一般層：等価世帯収入が中央値以上の世帯

準低所得層：等価世帯収入が中央値の2分の1以上中央値未満の世帯

低所得層：等価世帯収入が中央値の2分の1未満の世帯

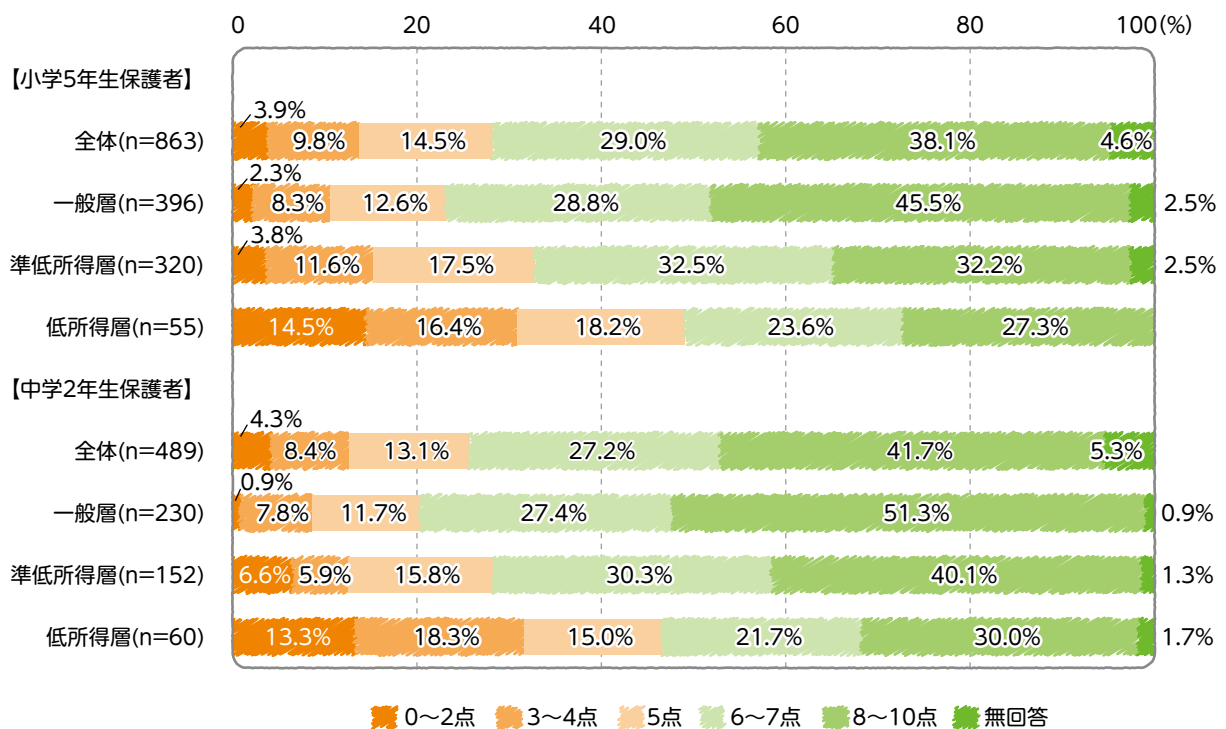
(2) 保護者の生活満足度

保護者の生活の満足度については、小学5年生保護者では、「0～2点」に該当する割合が3.9%、「3～4点」に該当する割合が9.8%、「5点」に該当する割合が14.5%、「6～7点」に該当する割合が29.0%、「8～10点」に該当する割合が38.1%となっており、満足度が高い方(6～10点)の回答割合は67.1%となっています。

また、中学2年生保護者では、「0～2点」に該当する割合が4.3%、「3～4点」に該当する割合が8.4%、「5点」に該当する割合が13.1%、「6～7点」に該当する割合が27.2%、「8～10点」に該当する割合が41.7%となっており、満足度が高い方(6～10点)の回答割合は68.9%となっています。

なお、等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生保護者と中学2年生保護者のどちらについても「低所得層」の世帯で「6～10点」に該当する割合が他の層と比較して低くなっており、小学5年生保護者が50.9%、中学2年生保護者が51.7%となっています(図表2-15)。

図表 2-15 保護者の生活満足度(等価世帯収入の水準別)



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査(令和5年度)」

注：「0：まったく満足していない」から「10：十分に満足している」の11段階で回答を得たものを、5つの分類に再分類して集計



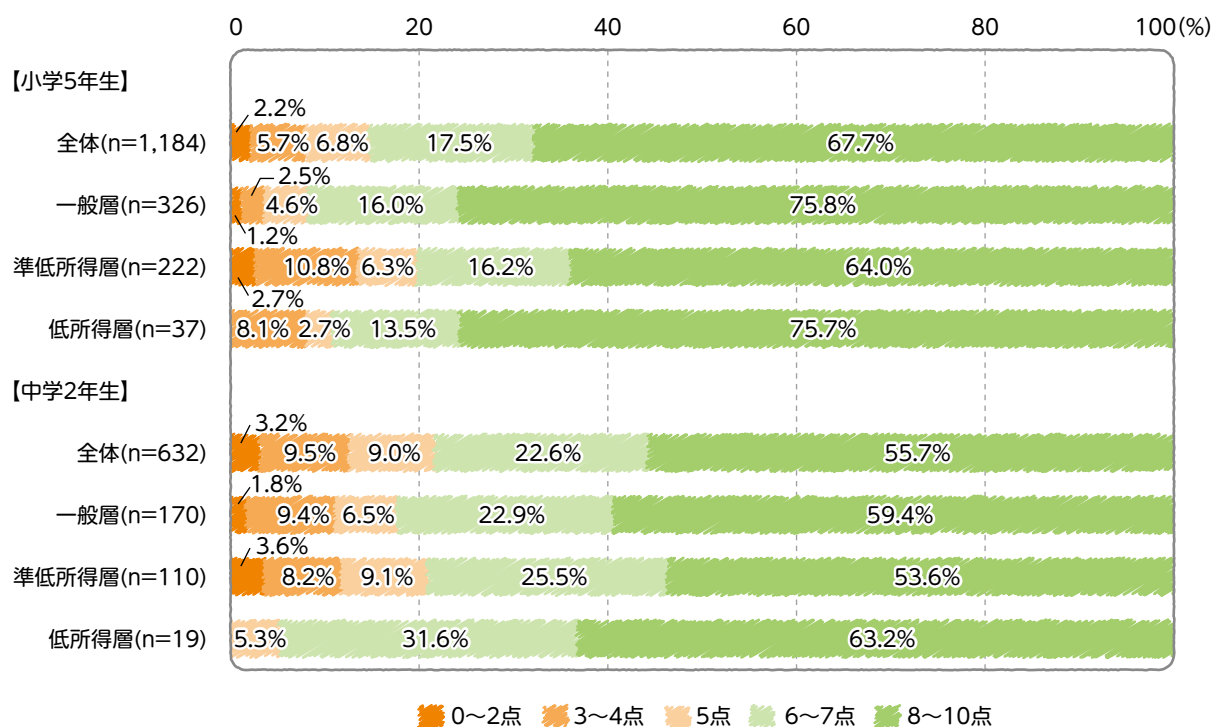
(3) こどもの生活満足度

こどもの生活の満足度については、小学5年生では、「0～2点」に該当する割合が2.2%、「3～4点」に該当する割合が5.7%、「5点」に該当する割合が6.8%、「6～7点」に該当する割合が17.5%、「8～10点」に該当する割合が67.7%となっており、満足度が高い方(6～10点)の回答割合は85.2%となっています。

また、中学2年生では、「0～2点」に該当する割合が3.2%、「3～4点」に該当する割合が9.5%、「5点」に該当する割合が9.0%、「6～7点」に該当する割合が22.6%、「8～10点」に該当する割合が55.7%となっており、満足度が高い方(6～10点)の回答割合は78.3%となっています。

なお、等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生と中学2年生のどちらについても「準低所得層」の世帯で「6～10点」に該当する割合が他の層と比較して低くなっていますが、小学5年生では80.2%、中学2年生では79.1%となっており、どちらも生活満足度は高くなっています(図表2-16)。

図表 2-16 こどもの生活満足度(等価世帯収入の水準別)



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査(令和5年度)」

注：「0：まったく満足していない」から「10：十分に満足している」の11段階で回答を得たものを、5つの分類に再分類して集計



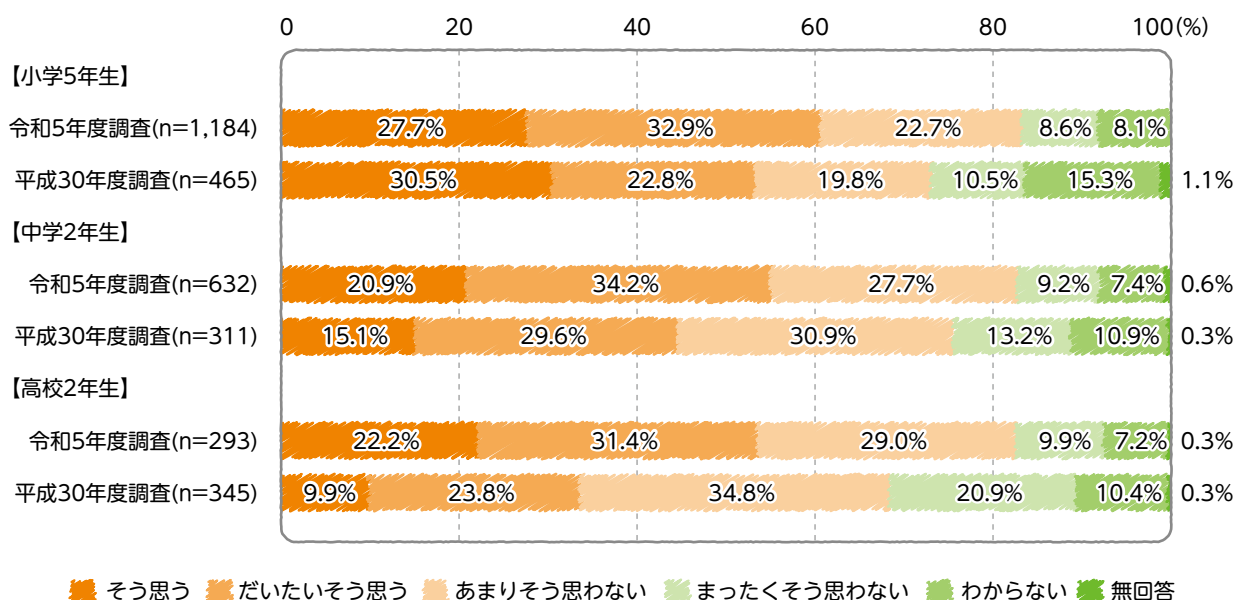
第4節

こどもの自己認識

(1) 自己肯定感

「自分のことが好き」と思うこどもの割合（「そう思う」、「だいたいそう思う」の割合）については、令和5年度において、小学5年生が60.6%、中学2年生が55.1%、高校2年生が53.6%となっており、いずれも平成30年度と比較して上昇しています（図表2-17）。

図表 2-17 「自分のことが好き」と思うこどもの割合

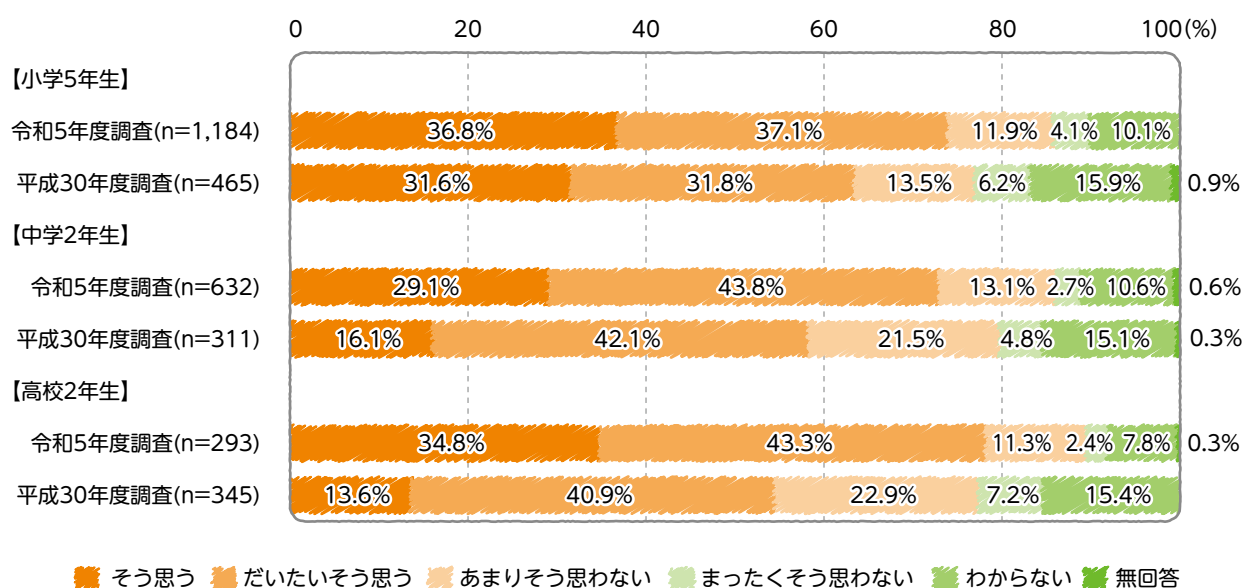


出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（平成30年度・令和5年度）」



また、「まわりの人から大切にされている」と思うこどもの割合（「そう思う」、「だいたいそう思う」の割合）についても、小学5年生が73.9%、中学2年生が72.9%、高校2年生が78.1%となっており、いずれも平成30年度と比較して上昇しています（図表2-18）。

図表 2-18 「まわりの人から大切にされている」と思うこどもの割合



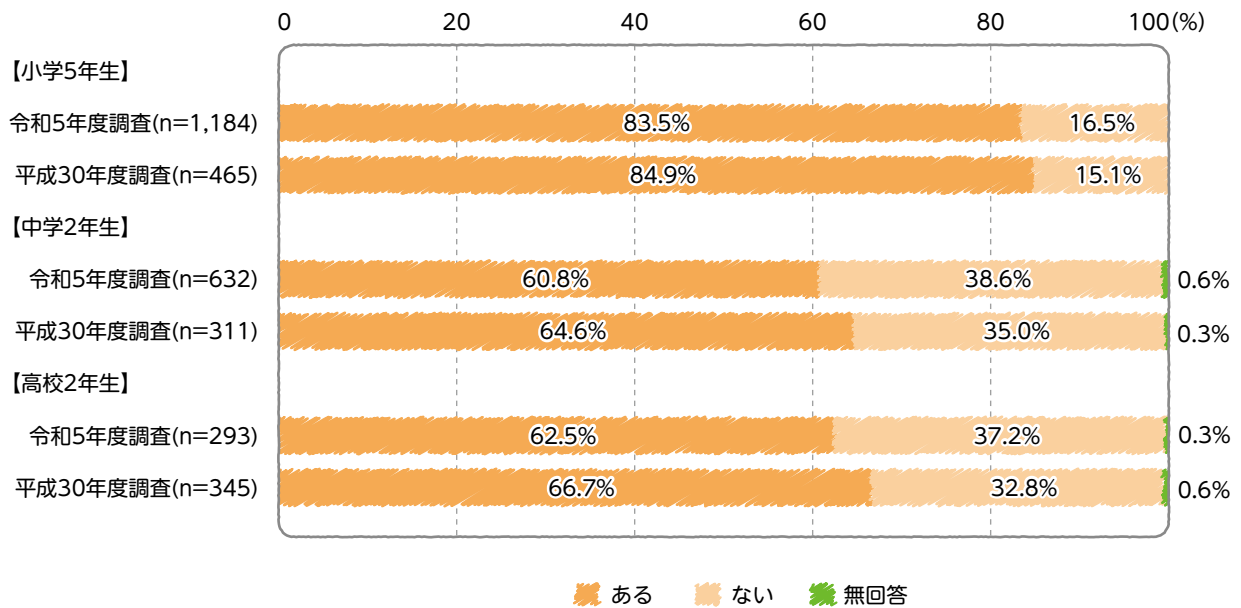
出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（平成30年度・令和5年度）」



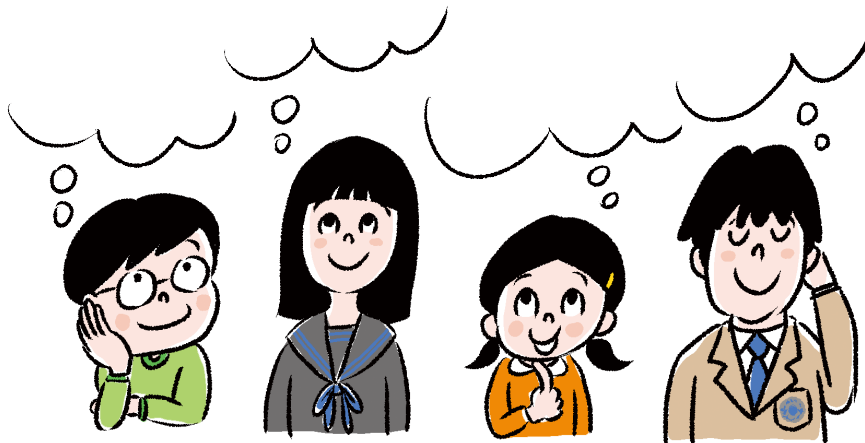
(2) 将来の夢の有無

「将来の夢がある」こどもの割合については、令和5年度において、小学5年生が83.5%、中学2年生が60.8%、高校2年生が62.5%となっており、いずれも平成30年度と比較して減少しています(図表2-19)。

図表 2-19 将来の夢のあるこどもの割合



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（平成30年度・令和5年度）」



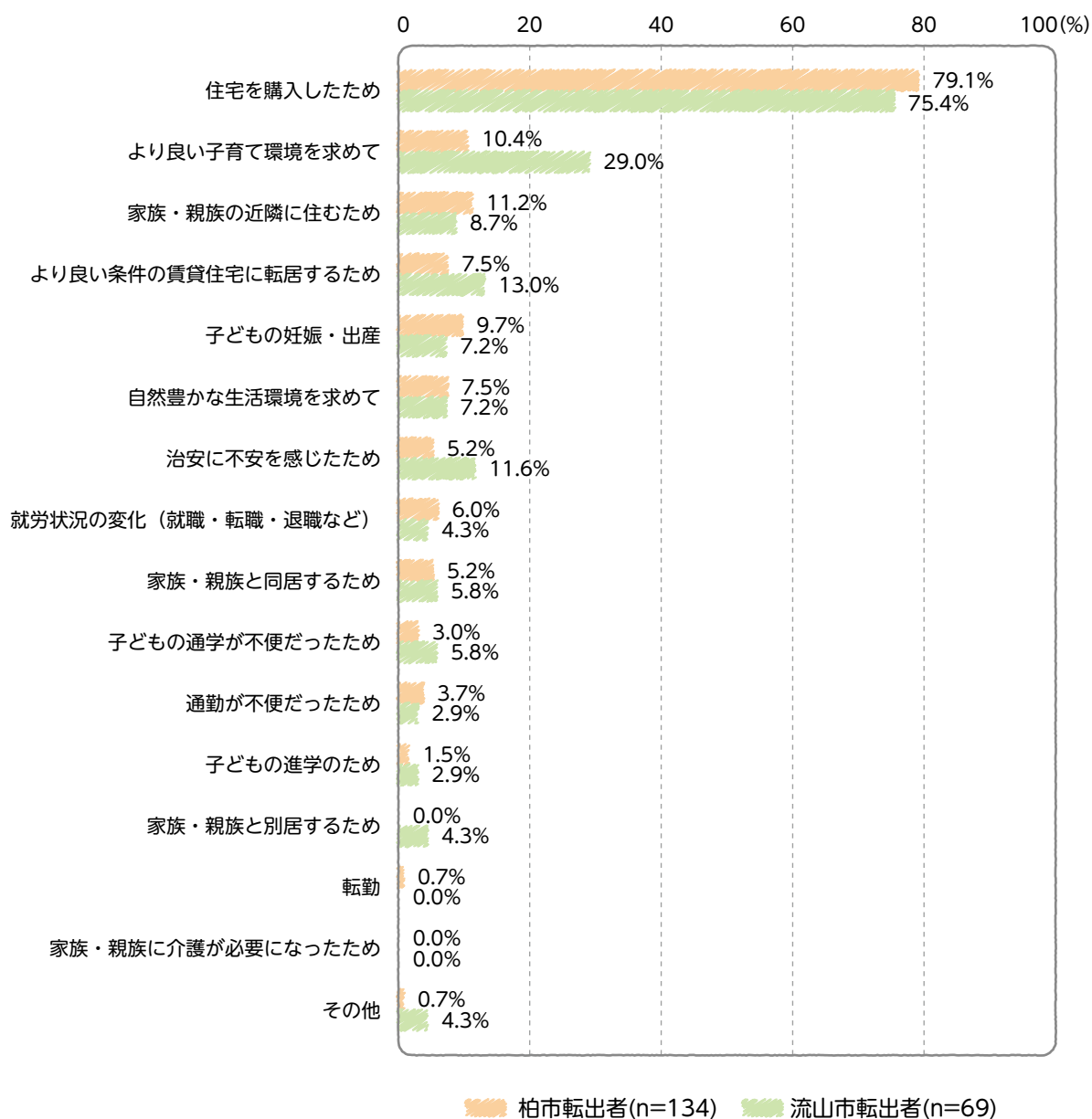
第5節

転出世帯の状況

(1) 松戸市から転出したきっかけ

就学前児童保護者が本市から転出したきっかけについては、柏市への転出者、流山市への転出者ともに「住宅を購入したため」が最も多く、柏市への転出者では79.1%、流山市への転出者では75.4%が該当しています(図表2-20)。

図表 2-20 松戸市から転出したきっかけ



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（令和5年度）」

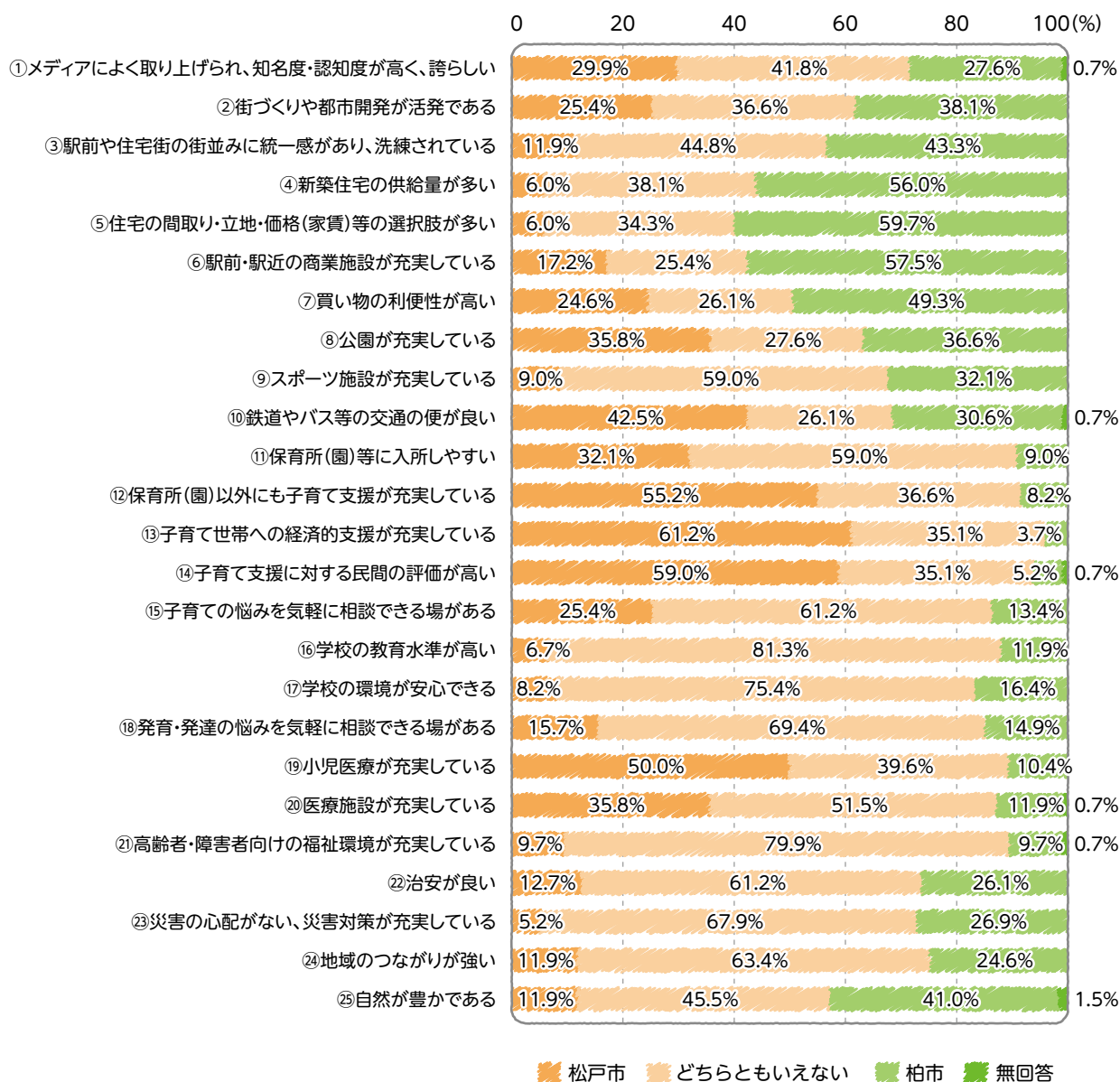
注：調査対象は過去5年以内に本市から柏市または流山市に転出した就学前児童保護者
該当する項目を全て選択（複数回答）

(2) 松戸市と転出先との比較

本市から柏市に転出した就学前児童保護者において、「柏市よりも松戸市のほうが該当すると思う」の割合が最も多かった項目は、「⑬子育て世帯への経済的支援が充実している」の61.2%であり、次いで「⑭子育て支援に対する民間の評価が高い」の59.0%、「⑫保育所(園)以外にも子育て支援が充実している」の55.2%となっています。

一方で、「松戸市よりも柏市のほうが該当すると思う」の割合が最も多かった項目は、「⑤住宅の間取り・立地・価格(家賃)等の選択肢が多い」の59.7%であり、次いで「⑥駅前・駅近の商業施設が充実している」の57.5%、「④新築住宅の供給量が多い」の56.0%となっています(図表2-21)。

図表 2-21 松戸市と柏市との比較



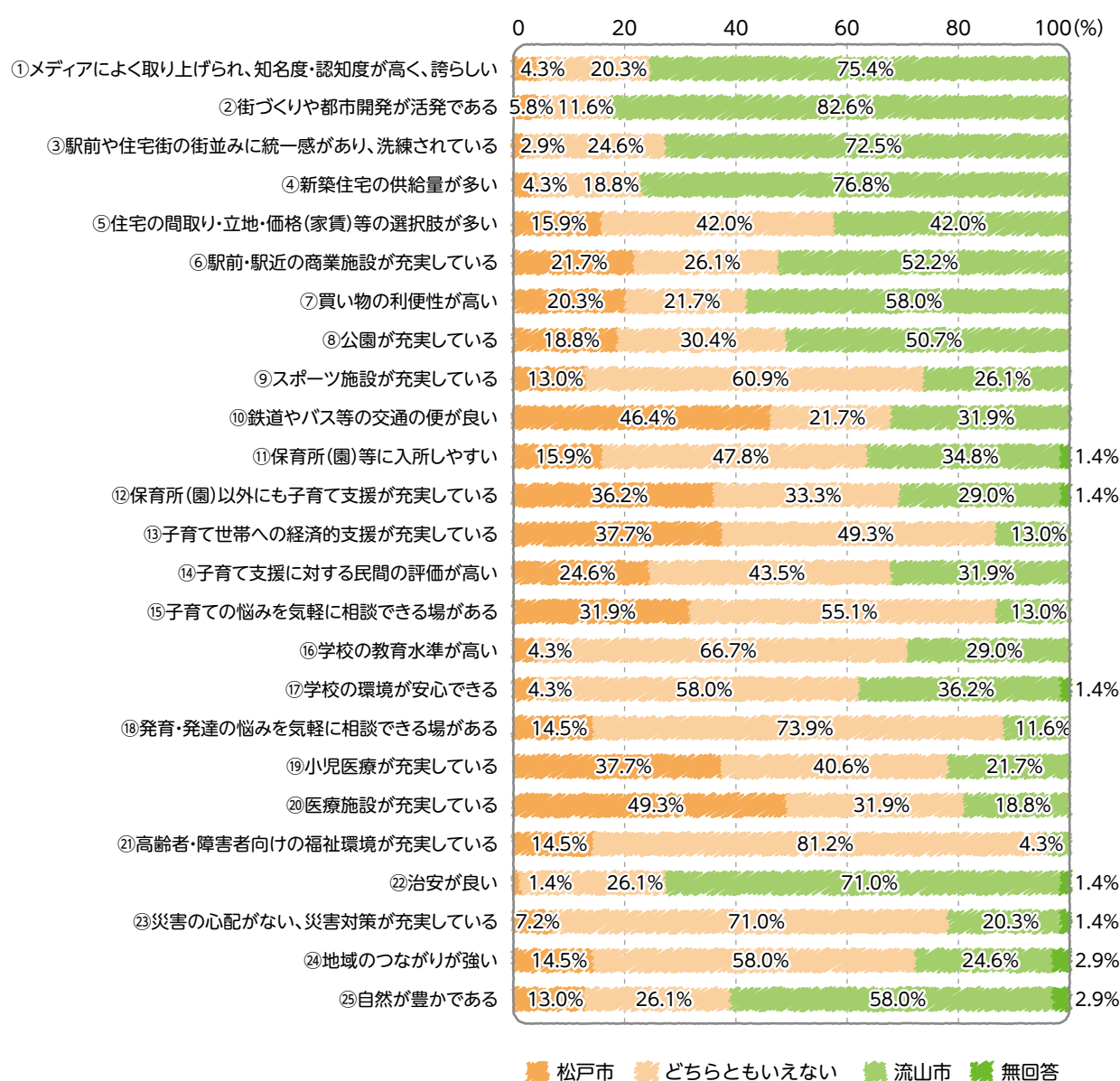
出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（令和5年度）」

注：調査対象は過去5年以内に本市から柏市に転出した就学前児童保護者（回答数：134）

本市から流山市に転出した就学前児童保護者において、「流山市よりも松戸市のほうが該当すると思う」の割合が最も多かった項目は、「⑩医療施設が充実している」の49.3%であり、次いで「⑩鉄道やバス等の交通の便が良い」の46.4%、「⑬子育て世帯への経済的支援が充実している」、「⑯小児医療が充実している」の37.7%となっています。

一方で、「松戸市よりも流山市のほうが該当すると思う」の割合が最も多かった項目は、「②街づくりや都市開発が活発である」の82.6%であり、次いで「④新築住宅の供給量が多い」の76.8%、「①メディアによく取り上げられ、知名度・認知度が高く、誇らしい」の75.4%となっています(図表2-22)。

図表 2-22 松戸市と流山市との比較



出典：松戸市「子ども・子育てに関するアンケート調査（令和5年度）」

注：調査対象は過去5年以内に本市から流山市に転出した就学前児童保護者（回答数：69）